

[PPNシンポジウム2024]

2024/9/21(土)

10:30~17:20

# 産前産後の 多職種連携

KFC Hall & Rooms

東京都墨田区横網1-6-1  
国際ファッションセンタービル10階

～健康と運動について考える～

参加申し込みは  
コチラ



## 講演



能瀬さやか / ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター スポーツ医学研究部門 産婦人科

医学博士 日本産科婦人科学会専門医 日本生殖医療専門医 日本スポーツ協会公認スポーツドクター 日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ医  
日本女性医学学会認定ヘルスケア専門医

専門分野：生殖内分泌 女性医学 女性スポーツ医学

北里大学医学部卒業後、同愛記念病院で研修医を経て、2006年に東京大学医学部産婦人科学教室入局。17年に国立大学病院初の「女性アスリート外来」を開設。23年4月から現職。オリンピック、パラリンピックなどの日本代表選手だけでなく、様々な年代のスポーツを楽しむ女性のコンディション管理に関わる。学生や指導者向けの啓発活動も行う。ウーマン・オブ・ザ・イヤー2024受賞。

全体会テーマ：『妊娠期・産後のトータルサポート』



鈴木岳 / 株式会社R-body 代表取締役

博士（スポーツ医学） NATABOC-ATC JSPO-AT NSCA-CSCS JATI-AATI

専門分野：コンディショニング

ワシントン州立大学を卒業後、全米公認アスレティックトレーナー(ATC)の資格を取得。帰国後、1998年より全日本スキー連盟専属トレーナーとなり、ソルトレイク・トリノ・バンクーバー・ソチオリンピックにてアスリートの活躍を支える。同時に筑波大学大学院にて「トップアスリートのコンディショニング」を専門領域とした研究にも従事し博士号(スポーツ医学)を取得。2003年、ライフパフォーマンスをサポートするトレーナーカンパニー、株式会社R-bodyを設立。スポーツ医・科学の最前線コンセプトのもとに創設され、アスリートはもちろん一般の方を対象に、予防医学に特化したコンディショニング・トレーニングサービスを提供している。

全体会テーマ：『産前産後の女性のコンディショニング ～運動器を整える～』



伊藤路奈 / 久我山病院 産婦人科 医長 産前産後ケアステーションつむぎ代表理事

日本産科婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医 日本母体救命システム普及協議会ベーシックインストラクター

日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医 日本医師会認定健康スポーツ医

専門分野：産婦人科一般 女性医学

2001年杏林大学医学部卒業。以降、大学病院や総合病院で研鑽を積む。現在、久我山病院産婦人科医長として主にお産に携わる傍ら、杏林大学非常勤講師として“すこやか外来”で女性ヘルスケアに従事する。

分科会テーマ：『妊娠・授乳と骨量変化』



須永康代 / 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 理学療法学科 准教授

博士（保健学）

専門分野：生体運動学 ウィメンズヘルス理学療法学

2004年に埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科卒業後、臨床経験を積み、2008年に広島大学大学院保健学研究科修士課程、2018年に博士課程を修了。2006年より埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科に着任し、2020年より現職。現在は妊娠中から出産後の女性に対する理学療法について、姿勢制御のメカニズム、動作や歩行様式に関する研究などに力を入れている。

分科会テーマ：『産前産後の運動とバイオメカニクス』



野村由実 / 千葉工業大学 創造工学部 教育センター 助教

早稲田大学スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻博士後期課程修了 博士（スポーツ科学）

専門分野：スポーツ科学（ヘルスプロモーション、ウィメンズヘルス、アスレティックトレーニング、スポーツ医学 妊娠期・産後の運動）

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科を修了後、日本体育大学体育学部助教などを経て2022年より現職。スポーツ活動時の傷害予防をはじめウィメンズヘルスの調査研究にも取り組み、産前産後の女性の運動支援も行っている。現在、運動を通じた産後の健康増進に向けて、科学研究費助成事業にて「産後の日常生活活動を高めるオンライン身体活動促進プログラムの開発と検証」に関する研究を推進している。

分科会テーマ：『産後の身体活動を促進する仕掛けを考える：Active Mom Project』



西山夏実 / 株式会社maemo atomo代表取締役 大阪大学大学院医学系研究科健康スポーツ科学講座スポーツ医学教室 博士課程

助産師 医学修士 プラティスインストラクター 保健師 看護師

専門分野：産前産後の身体活動

2016年愛媛県立医療技術大学助産学専攻卒業。

助産師として800件ほどの出産に立ち会い産前産後に生じる健康課題を解決するため運動の必要性を実感する。

2021年大阪大学大学院医学研究科医学専攻スポーツ医学教室入学。「妊娠中の身体活動と産科合併症との関連」をテーマに研究を行う。

2021年 助産師・理学療法士が連携し運動によってのちにまつわる社会課題の解決を目指しているベンチャー企業 株式会社maemo atomoを設立し運動効果の科学的エビデンスを研究・検証しながら、正しい知識をみなさんへ届け、適切な運動を提供していきよう「maemo atomo studio」を開業。

分科会テーマ：『助産師の視点を活かした、いのちがけで未来を育てる女性の健康サポートについて』



國田ちなみ / 筑波大学附属病院 リハビリテーション部

理学療法士

専門分野：ウィメンズヘルス

学生時代、無月経や繰り返す疲労骨折に悩み競技を引退した経験から、女性の健康に関心をもち理学療法士を目指す事となった。整形外科クリニックで勤務後、総合病院へ転職し骨盤底機能障害に関するトラブルを専門とした外来にてリハビリテーションに従事。現在は大学病院に勤務しながらWISの産前産後サポート事業で、骨盤底の機能障害やマイナートラブルへの対応、日常生活動作の指導を担っている。

分科会テーマ：『妊娠中・産後に考慮すべき骨盤底筋の機能評価とエクササイズ』